

ASHIYA
SMILE
BASE

2021-2030

第 5 次

芦 屋 市

総 合 計 画

概 要 版

10年間のまちづくりが スタートします

第5次芦屋市総合計画ができました。
これからの10年間で、芦屋市がどんなまちを目指し、
どのようにまちづくりを進めていくのかを示しています。
人口が減って若者が少なくなっていく中でも、
芦屋の魅力に磨きをかけ、誰一人取り残すことなく
誰もが「住み続けたい」「住んでみたい」まちを目指して、
市民と行政がいっしょに歩いていきましょう。



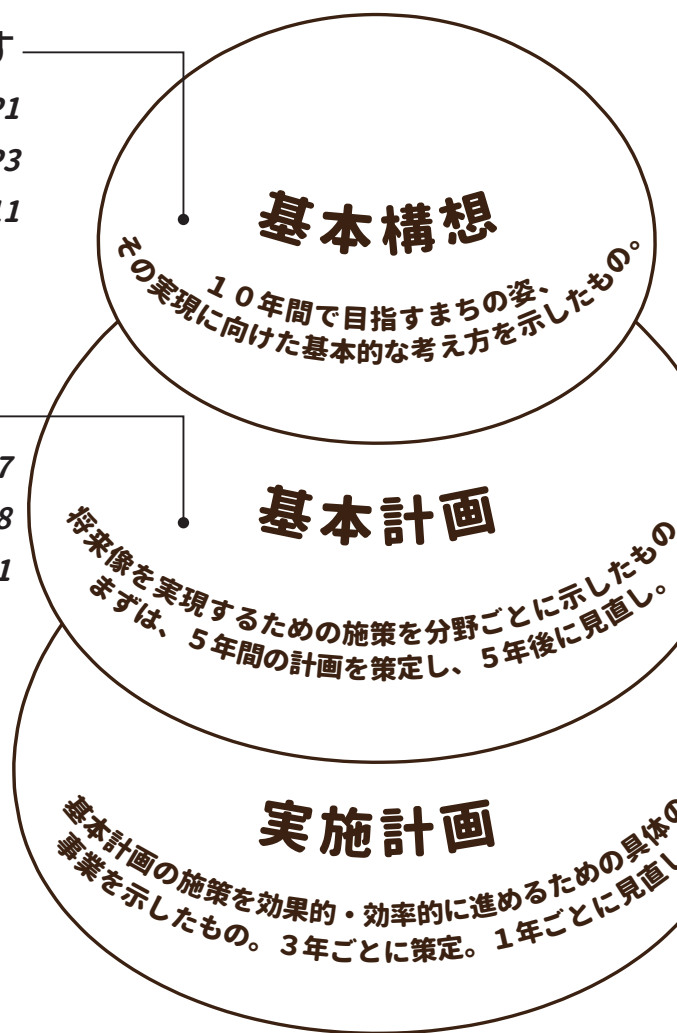
10年後、こんなまちを目指します

- 芦屋市が目指す将来の姿..... P1
- まちづくりの基本方針..... P3
- 芦屋市の今日と明日..... P11

こんな取り組みを進めます

- 施策の体系..... P17
- 施策目標..... P18
- 成果指標..... P31

※実施計画は、市行政内部の計画として毎年度検討するため、総合計画（基本構想・基本計画）の冊子には掲載していません。



第5次芦屋市総合計画



人口減少・少子高齢化に備えます

基本的な考え方..... P13

重点プロジェクト..... P14

第2期芦屋市創生総合戦略

人口減少・少子高齢化に対応するための戦略的
目標や分野を超えて重点的に取り組む
プロジェクトを示したものの。



もの。
し。

体の
直し。



10年後、 こんなまちを 目指します

芦屋市が目指す将来の姿

多くの市民の声や想いを聞いて、みんなで共有する芦屋市の将来像を定めました。

10年後こんなまちの実現を目指していきます。

将来像

人がつながり
笑顔あふれる

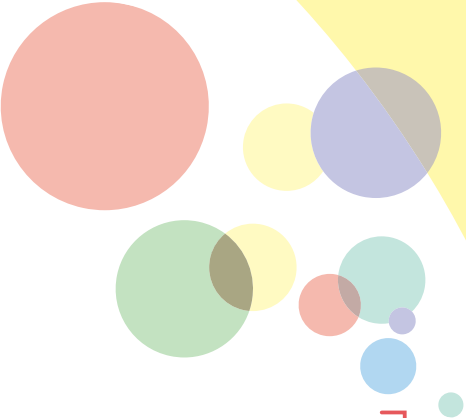
国際文化住宅都市として

住環境や暮らしに根付く文化、地域のネットワーク
みんなで未来を共有し、力を合わせることで、住宅者

人々の笑顔があふれ、

誰もがいきいきと暮

「住み続けたいまち、住んでみ



誰もが輝く 住宅都市

て 先人が築いてきた芦屋。
ウ など、芦屋ならではのまちの良さを継承しながら、
都市としての強みを磨き、さらなる魅力を創ります。
し、誇りを持てるまち、
暮らしているまち、
たいまち芦屋」を目指します。

キャッチフレーズ

ASHIYA
SMILE
BASE

アシヤ スマイル ベース

笑顔があふれる市民みんなのホームタウンをイメージし、
将来像をコンパクトに表現しました。
市民、行政がともに総合計画に関わり将来像を実現していく
ためのキャッチフレーズです。

まちづくりの基本方針

目指すまちの実現に向けて、これまでのまちづくりを受け継ぎながら、持続可能なまちをつくることを基本とします。そのために大切な3つの視点で計画を組み立て、取り組んでいきます。

基本 方針

「未来

持続可能な心弾むまちを

未来へつなぐ

日本では少子高齢化・人口減少が進み、
その影響が身近に感じられる今日この頃。
例外なく芦屋市も同じような状況になると想定されます。

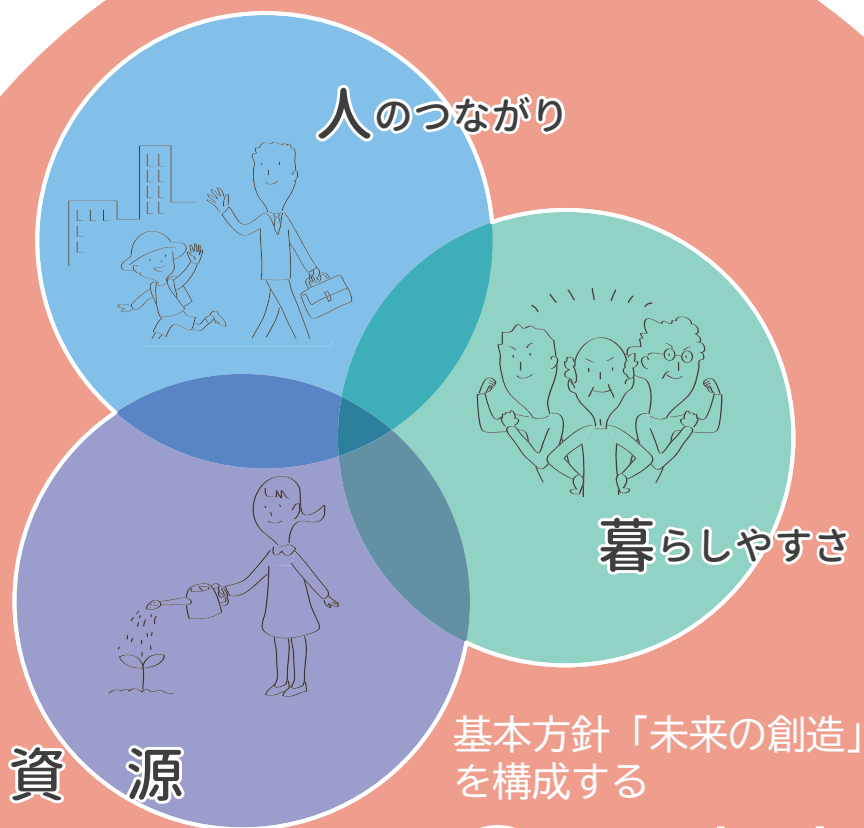
一方で、人が減っても、社会が変わっても、まちは在り続けます。

先人から受け継いだ芦屋のまち。
これまで続く魅力を守り、新たな魅力を増やし、
わくわくできるまちを次世代につなぎたい。

この想いを抱くのは、人。そして、想いを実現させるのも人。
市民、企業、地域活動団体、行政…
みんなで知恵と力を出し合って、
時代に合った取り組みを進めていきます。

の創造」

「デザイン



3つの視点

基本方針を構成する3つの視点

時代に 適い、 多様に 紡がれる ネット ワーク 人の つな がり

スマートフォン1つで何でもできる便利な時代。
家にいながら、いつでもだれでも世界とつながれる時代。
情報があふれ、目まぐるしいスピードで技術が進化し、
生活スタイルが変わり続けるこの時代において、
今まで通りのつながり方を続けることは
難しくなりました。

コミュニティやつながりが大切にされ、
自治会活動も盛んだった芦屋市でも、
考え方の変化、担い手不足などで、
地域活動を続けるのは難しいという話を耳にします。

しかし、くらしやまちを豊かにするためには、
人と人とのつながりが必要であることは変わりません。

これまでの活動も大切にしながら、
時代や地域、それぞれの生活スタイルに合った
新しい活動のしかたを見つけていくことで、
みんなが力を合わせて、
人のつながり・交流がつけられるまちを目指します。







→
P
→

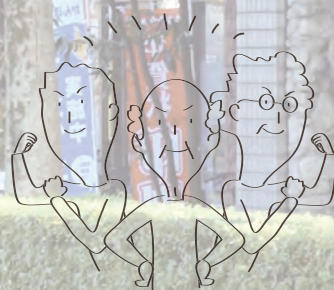
基本方針を構成する3つの視点

地域に包まれ安らぎを感じる暮らし
暮らしやすさ

阪神・淡路大震災を経験した芦屋市。
その記憶を受け継ぎながら、
近年頻発する大規模自然災害に備えて、
安全・安心に暮らせるまちづくりが求められています。

コンパクトな都市である芦屋市。
公共交通が発達した便利な都市ですが、
山があるまち、川があるまち、
歴史深いまち、新しいまち、
地域に個性があり、暮らす人々もさまざま。
それぞれのニーズに応える必要があります。

年齢や国籍、様々な背景を持つ人が
お互いに認め合い、助け合いながら、
どんなときにもみんなが安全に安心して生活し、
それぞれのスタイルで活躍できる、
そんなまちづくりを進めます。



基本方針を構成する3つの視点

地域資源を生かし、空間を活用する、

これまでとこれからの融合

資源

目に見えるもの、見えないもの、
まちに点在するさまざまな資源。
この資源こそがまちづくりの素材です。

山と海に囲まれた自然豊かな芦屋市は、
各時代の舞台となった歴史深いまち。
数多の文化人を生み出し、育てたまち。
魅力的な資源も多く、
整ったまちなみとそこから生まれる文化が、
芦屋のイメージを創ってきました。

ただ、時代の変化とともに、
まちの魅力を熟知する人が減り、
資源が十分に生かされないことも。
ときには、古き良きものと新しい価値観が対立。

洗練された住宅都市として、誇るべきものは何なのか。
残すべきものは残し、
必要であれば、新たな価値を付加し、
芦屋スタイルを進化させる。
それらを活用するとともに、発信することも忘れずに。
この過程を通じ、
価値創造の好循環を生み出します。



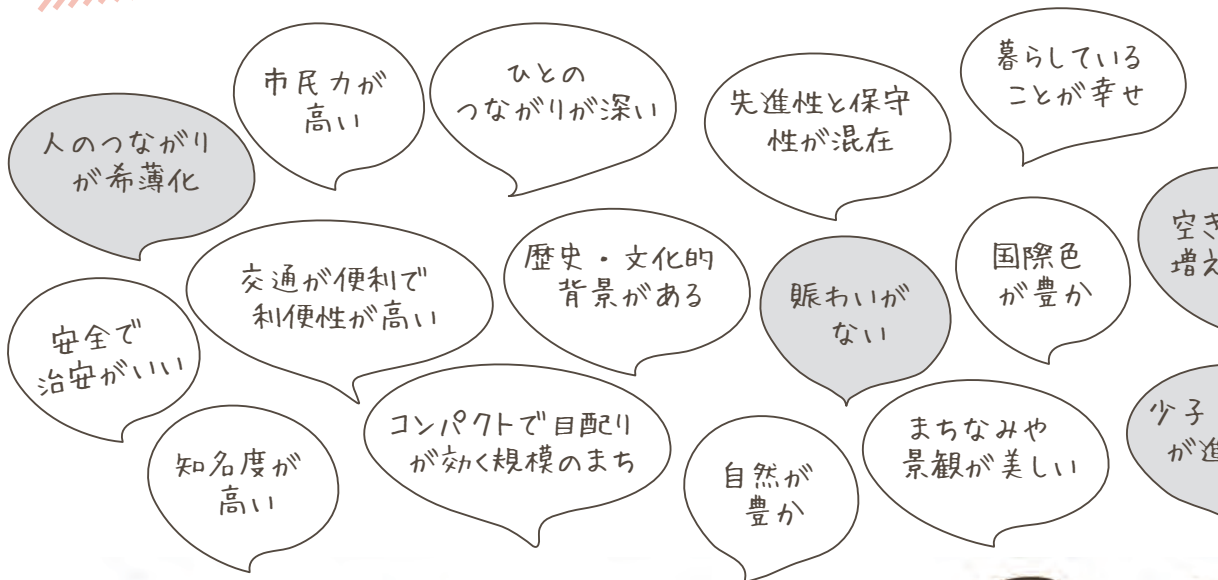




芦屋市の今日と明日

市民アンケートや市民ワークショップ、団体インタビューで
芦屋のいいところや気になるところを市民のみなさんと一緒に考えてみました。

芦屋はどんなまち？

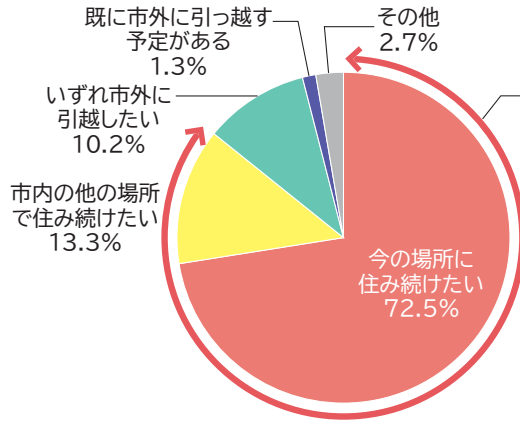


芦屋市でも人口減少と少子高齢化は着実に進み、働く世代の減少による地域経済の低下や市税収入の減少、社会保障関係経費の増加により、今後さらに財政の厳しさが増すと考えられます。

また、市民ニーズの多様化や災害リスクの高まり等により市政運営に様々な影響が生じると考えられます。

こういった課題を克服するために、人高年齢化を前提とした、柔軟な発想で地域市民・事業者・行政がそれぞれの役割を市とも連携しながら効果的、効率的にま

住み続けたいまち

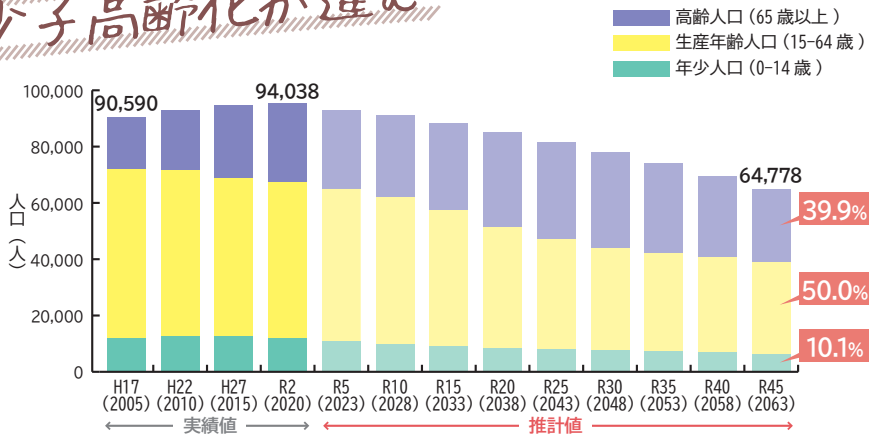


芦屋市内で
住み続けたい **85.8%**

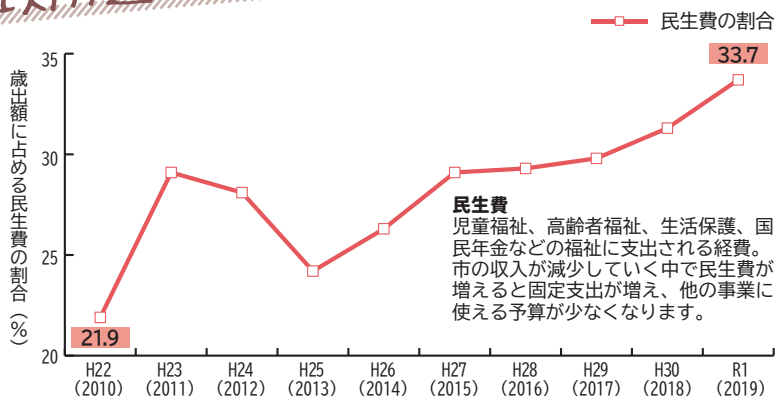
住み続けたい理由

- 1位 交通が便利である
- 2位 長年、住み慣れて愛着がある
- 3位 生活環境（まちの清潔さ）が良い

人口減少・少子高齢化が進む



財政構造が変化



空き家が増えている

少子・高齢化が進んでいる



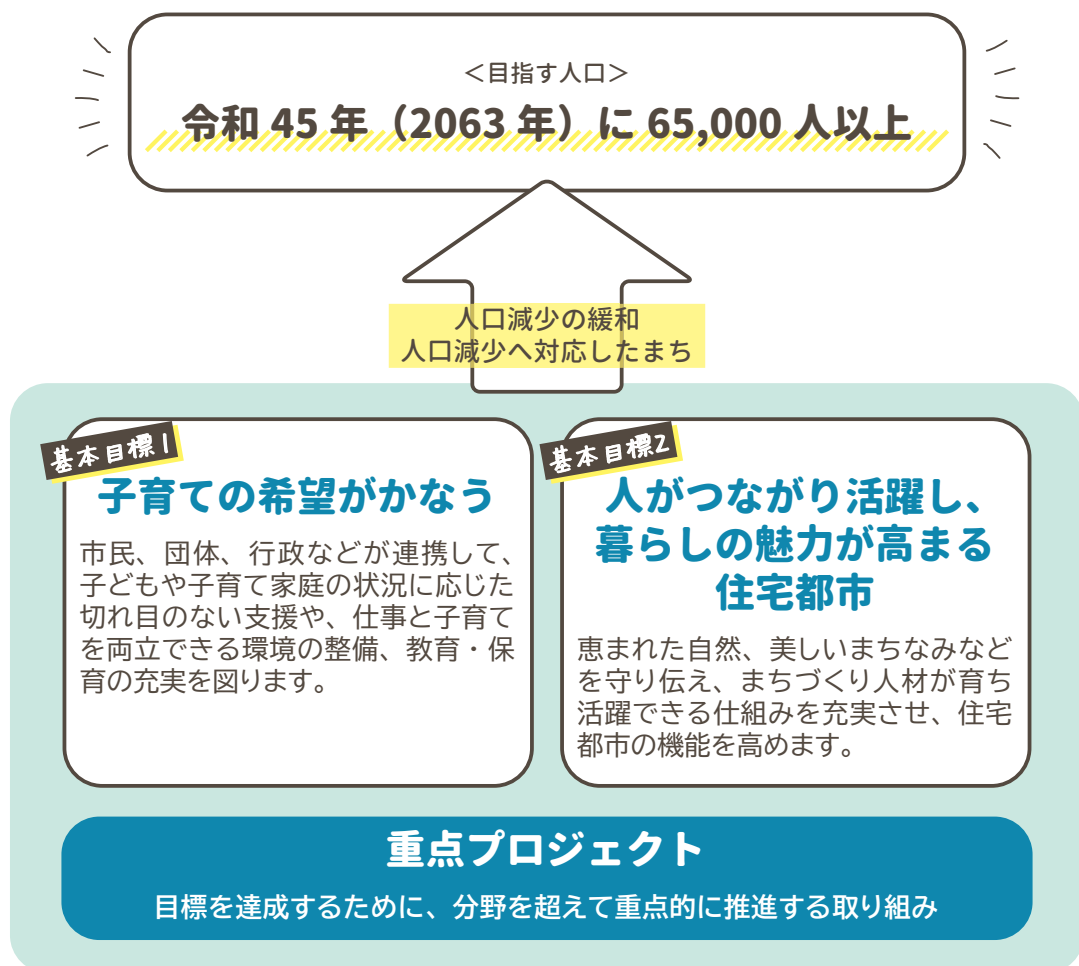
人口減少と少子の価値を高め、果たし、他都市づくりに取

人口減少・ 少子高齢化 に備えます

芦屋市でいちばん大きな課題といえる人口減少・少子高齢化に対応していくため、「第2期芦屋市創生総合戦略」を策定しました。この戦略は総合計画の一部として一緒に進めていきます。

基本的な考え方

芦屋市の人口は、減少傾向が続くと考えられますが、転入超過を維持し合計特殊出生率を向上させることで、令和45年（2063年）に65,000人以上の人口を目指します。この目標を達成するため、創生総合戦略として2つの目標を掲げ、重点プロジェクトを中心に取り組みを進めます。



子育て支援の推進と 「伝わる」プロモーション

ニーズに応じた子育て支援サービス、子どもや子育て家庭の悩みへの対応、特色ある教育や保育の提供など、地域や事業者などと連携しながら、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を進め、魅力的な子育て環境を実現します。

これら芦屋の魅力のある取り組みを、市民に分かりやすく、戦略的に発信し、子育て世代に選ばれるまちを目指します。

芦屋の子育て

＼イイネ！／

を増やす

◆ 妊娠期から
子育て期まで
切れ目ない支援



◆ 教育 ICT 環境の
充実



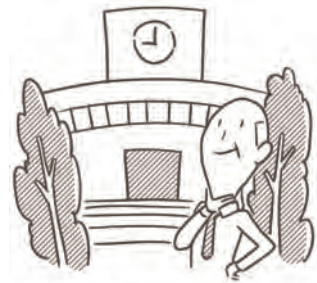
◆ 親子で楽しめる
イベント



◆ おいしい
給食・食育



◆ 特色ある
教育・保育



…& more?◆

芦屋の未来へ、多様なつながりで 新たなまちのチャレンジ

まちに愛着のある市民、企業、団体などがつながる機会や場を増やし、つながりを深め活かすことのできる人材を見つけ、育てます。そして、人々が集う相乗効果で、地域の可能性を発見したり、課題を解決することで、より暮らしやすいまちの実現を目指します。

現在の取り組み

芦屋 まちデザインラボ

市民活動をアップデート
楽しみながらまちに貢献

こえる場！

共生のまちづくりに向け
様々な事業者・団体と連携

ASHIYA RESUME

芦屋の女性がつながり、
自分らしく活躍する

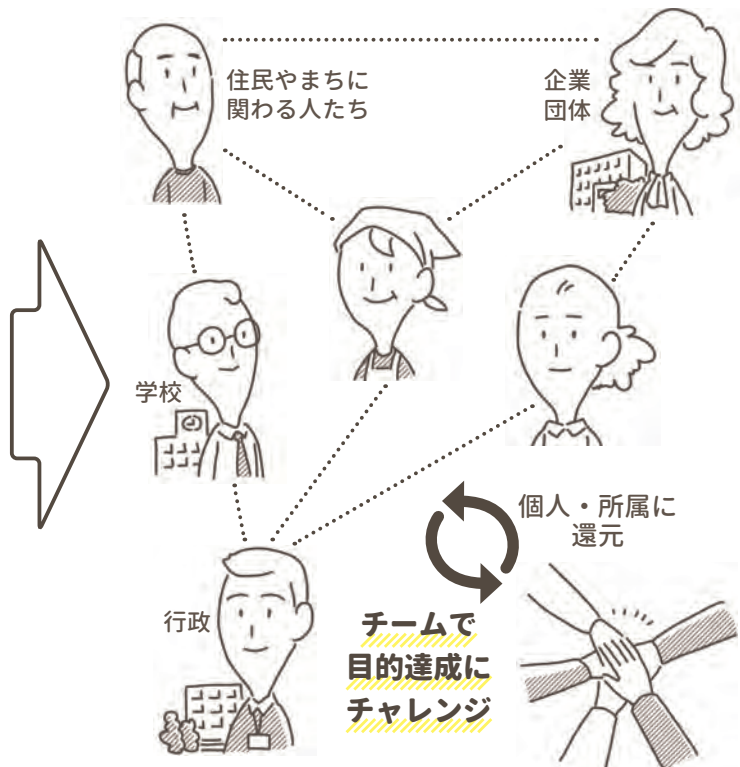
地域フィールドラボ

民間の IT人材が行政職員と
課題解決にチャレンジ

+

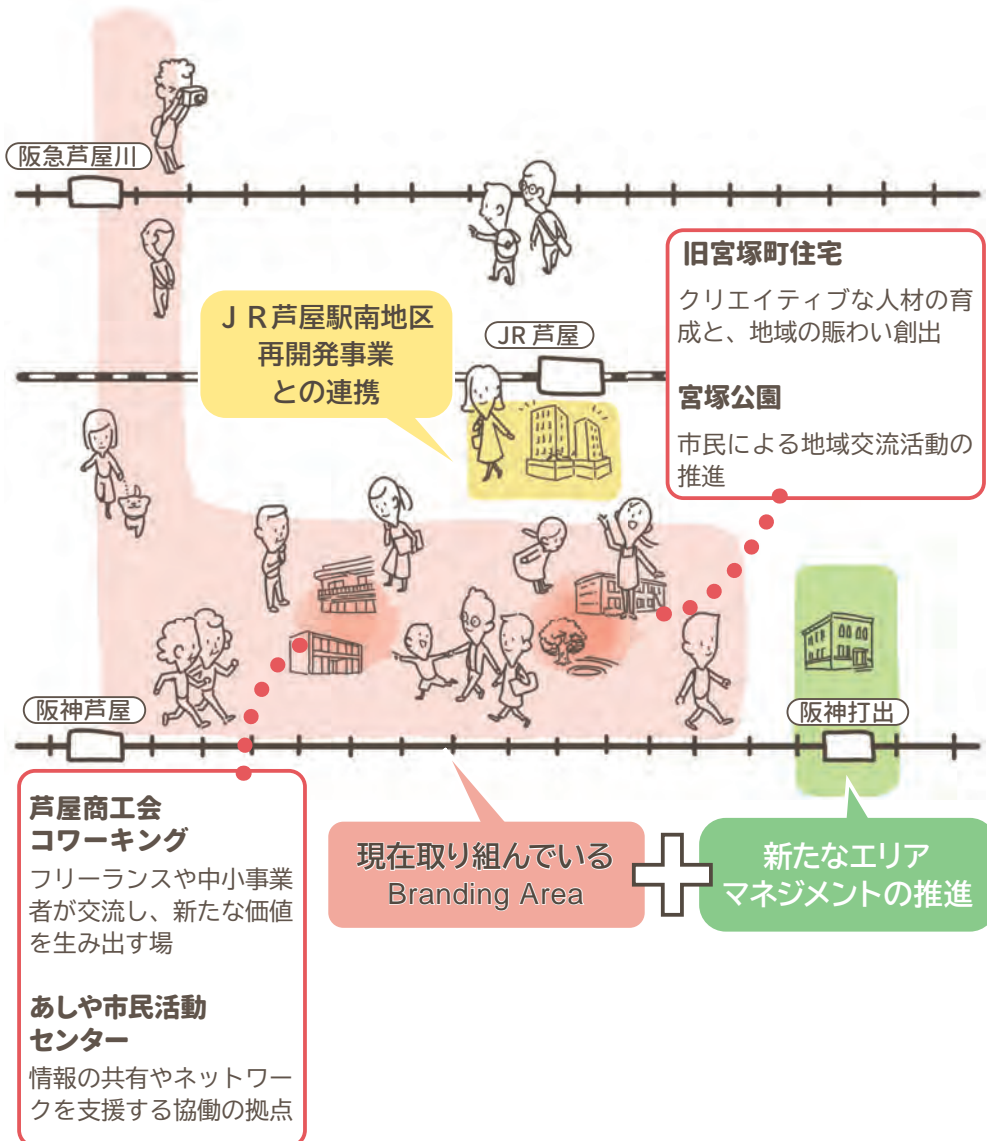
幅広い世代の活動的な市民

目的に応じた様々な連携でチャレンジ



ともに進める エリアマネジメント

官民が連携して取り組んでいる芦屋市中心部のブランディングエリアにおいて、JR芦屋駅南地区再開発事業との連動、エリア内の歴史的建造物の活用、起業や市民活動の支援により、賑わいや自己実現の場をデザインすることに併せて、市内回遊性を高め、市全体への波及効果を目指します。また、打出教育文化センターなど公共施設の最適配置に伴う新たなエリアマネジメントを推進します。



将来像を 実現するために こんな取り組み を進めます

前期基本計画の 施策体系

目指すまちの姿の実現に向けて、6つの施策分野ごとに施策目標を設定し、取り組んでいきます。

1 子育て・教育

- 誰もが安心して生み育てられる環境が充実している
- 未来への道を切り拓く力が育っている
- 生涯を通じた学びの文化が醸成されている



2 福祉健康

- あらゆる人が心地よく暮らせるまちづくりが進んでいる
- 健康になるまちづくりが進んでいる



3 市民生活

- 良好な生活環境が整い魅力的な暮らしが創出されている



4 安全安心

- 災害に強いまちづくりが進んでいる
- 日常の安全安心が確保されている



5 都市基盤

- 住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている
- 持続可能なインフラ整備が進んでいる



6 行政経営

- 協働の意欲が高まり市民主体のまちづくりが進んでいる
- 人口減少社会に対応した健全で効果的な行財政運営が行われている
- 急速な社会変化に対応できる組織になっている



SDGs(持続可能な開発目標)は、令和12年(2030年)までに達成すべき国際目標で、誰一人取り残さない社会の実現のために、17のゴール(目標)と169のターゲット(具体目標)で構成されています。

芦屋市でも、各施策分野にSDGsを関連付けて、まちづくりを進めていきます。



施策目標 1

誰もが安心して 生み育てられる環境が 充実している

全国的に、共働き世帯の増加による保育のニーズの高まりや児童虐待の件数が増加しているなど、子どもと家庭を取り巻く環境も変化してきています。

仕事と子育てを両立できる環境を整えるとともに、子どもの命と健康を守るために、母子保健施策と子育て支援を連携し、安心して子育てできる環境をつくっていきます。



基本施策、主な施策

仕事と子育てを両立できる環境整備を進めます

- 社会環境の変化に応じた就学前教育・保育施設の整備
- 子どもたちが放課後などを安全・安心に過ごせる居場所づくり

子どもの命と健康が守られ、安心して子育てできる環境をつくります

- 子育て家庭への経済的支援
- 児童虐待の未然防止・早期発見・早期対応のための相談・支援体制の強化
- 妊娠期から子育て期の切れ目ない支援の充実
- 子育て世代間や多世代で交流を図り、情報を共有できる機会と場所の提供



施策目標 2

未来への道を切り拓く力が育っている

教室では1人1台のタブレット端末が渡されるなど、子どもや若者が育つ環境は変わってきています。

子ども達が自ら未来を切り拓く力をつけられるよう、プログラミングや外国語など時代にあった教育を行うとともに、友人や地域と力を合わせて問題を解決するためのコミュニケーション能力や課題を発見し解決する力の育成に取り組めます。そして、すべての子どもがともに育ちあう教育・保育を進めていきます。



基本施策、主な施策

子どもや若者の健全な成長を支えます

- 社会的な問題に対する地域や家庭での取組の推進
- 就学前の子ども、児童・生徒、青少年の悩みへの対応、解消や社会参加の促進

就学前教育・保育施設、学校、家庭、地域が連携・協働し、未来を見据えた教育環境を整えます

- インクルーシブ教育・保育システムの推進
- 時代に応じた質の高い教育・保育環境の整備
- ICTを有効活用した教育の推進
- 就学前教育・保育施設、学校、家庭、地域が連携し、社会の中で学べる環境づくり



施策目標 3

生涯を通じた 学びの文化が 醸成されている

芦屋市は「国際文化住宅都市建設法」が適用される全国で唯一の都市です。文化をまちのアイデンティティとして、発展の歴史を重ねてきました。

この芦屋の文化を次の世代に伝えていくために、魅力を発信するとともに、幅広い世代の市民が芦屋の文化を知り、楽しみ、活かす息の長い活動を支援していきます。



基本施策，主な施策

文化の継承と活用に努めます

- 歴史的・文化的な資源の活用推進
- 多様な連携による読書のまちの推進
- 誰もが健康で豊かなスポーツ文化を楽しめる環境の推進

市民による学びの仕組みづくりを進めます

- 市民による生涯を通じた学習の支援



施策目標 4

あらゆる人が心地よく 暮らせるまちづくりが 進んでいる

地域や家庭でのつながりが希薄になっていられるようになって久しく、社会的支援が必要な人への対応はますます重要となっています。

年齢や性別、障がいの有無などに関わらず、互いの人権を尊重し合い、自分に合った役割を担い支え合う地域づくりを更に進めていきます。



基本施策、主な施策

地域共生社会の実現に向けた取組を推進します

- 包括的支援体制の構築
- 地域の住民や事業者をはじめとした多様な主体の参加と協働による地域力の向上

誰もが地域で暮らしやすいまちづくりを進めます

- 地域から孤立している人や経済的に困窮している人への適切な支援
- 高齢者がいつまでも安心して暮らせる取組の推進
- 障がいのある人が活躍できる環境整備

平和と人権が尊重され、誰もが活躍できる社会の実現を目指します

- 男女共同参画意識が浸透し、女性が活躍できるまちを目指したエンパワメント事業の展開
- 多文化が共生する地域づくり
- 市民一人一人の多様性が尊重され、安心して暮らせる環境づくり
- 平和な世界の実現に向けた施策の実施

施策目標 5

健康になる まちづくりが 進んでいる

からだところの健康は誰もの願いです。

生活習慣病予防や健康寿命の延伸を目指して、市民一人一人が健康を意識し、生きがいを持ち自分らしく過ごすことのできる環境を整え、生涯を通じた健康づくりを進めていきます。また、社会や経済の活動を維持した上での感染症の予防・収束に向けて「新しい生活様式」の啓発などに取り組んでいきます。



基本施策，主な施策

市民の健康づくりを促し、いつまでも自分らしく生き生きと過ごすことができる取組を進めます

- 高齢者が健康で、社会と関わり、楽しみ、活躍できる場の整備
- 多様な主体との連携による気軽に「健康づくり」に取り組むことができる仕組みの構築
- 新たな感染症の拡大防止



施策目標 6

良好な生活環境が整い 魅力的な暮らしが 創出されている

市民意識調査では、まちの清潔さや自然環境の豊かさの評価は高いものの、賑わいが足りないとされています。

芦屋らしい美しいまちをみんなで守り育てるとともに、地域の個性を高めるような魅力を創り出し、住み続けたい生活環境づくりに努めます。



基本施策、主な施策

清潔なまちを協働で維持する取組を進めます

- 市民マナー条例をはじめとした快適なまちづくりの推進

環境へ配慮した都市生活の仕組みを築き、意識を高めます

- ごみの減量化、再資源化事業の促進
- 地球温暖化防止に向けた取組
- 自然環境を守る意識の向上と自然に触れる機会の創出

本市の特性に合った商業の活性化を目指します

- 起業・創業・経営継続の支援
- 住宅都市としての価値を高める商業活性化の推進

行政サービスの利便性を高めます

- 新たな技術や手法の見直しによる持続可能な行政サービスの利便性の向上

施策目標 7

災害に強い まちづくりが 進んでいる

大規模災害や新たな感染症により市民の不安が増えています。

将来起こり得る災害等の発生に備えて、行政も市民も、できることを日頃から準備しておくことが重要です。国や県、地域と一体となった防災・減災への対策を進め、いざという時にもきちんと対応できる地域づくりを目指していきます。



基本施策、主な施策

まちの防災機能を高めます

- 適切な情報提供による住宅の耐震改修の促進
- 避難所等施設の防災機能の強化
- 無電柱化の推進

自助、共助、公助の連携により、災害に備えます

- 災害発生時に地域住民間で協力し合える体制を構築するための支援
- 防災に関わる情報の効果的な発信
- 災害発生時の体制や防災対策の充実



施策目標 8

日常の安全安心が確保されている

市内の犯罪認知件数は減っているものの、スマートフォンなどを使った消費者トラブルや特殊詐欺、高齢者や自転車の交通事故が問題になっており、関係団体と連携しながら地域に合わせて防犯対策や交通安全対策を進めます。

また、医療分野では、誰もが適切な医療が受けられるよう、救急体制や地域医療の充実を引き続き進めます。



基本施策、主な施策

地域などと連携し防犯の向上に取り組みます

- 関係機関、地域活動団体等との連携を図り、市民の安全を確保するための対策
- #### 交通ルールを守る意識を高め、歩きやすいまちとなるよう取り組みます
- 地域との連携による通学路合同点検による危険箇所の点検、改善
 - 道路の安全な通行につながる対策の実施
 - 交通安全に関する周知・啓発の強化

誰もが安心して適切な医療を受けられる地域を目指します

- 救急体制の充実
- 医療の地域連携の推進

施策目標 9

住宅都市の魅力が 受け継がれ、 高められている

住宅都市・芦屋が誇り育んできた緑や良好な景観を、これからも持続可能な手法で維持することが大切です。

空き家の動向にも気を付けつつ、住宅ストックの活用を促しながら、市民とともに都市空間にさらなる魅力をプラスし付加価値を生み出すことで、価値観が多様化する時代でも選ばれるまちを目指していきます。



基本施策、主な施策

まちなかの緑の持続可能な整備に努めます

- 地域主体の緑化の推進
- 持続可能な緑の維持管理手法の検討

良好な景観を守り、魅力を伝えます

- 良質な都市景観への誘導

地域の価値を高める公共空間の活用を進めます

- 公園ごとの特性に合わせた更新、活用、維持管理
- 都市施設のユニバーサルデザインの推進
- 多様な主体による公共施設の活用

良質な住環境を維持し、住宅ストックを活用します

- 長期的な市営住宅のあり方の検討
- 住宅ストックの効果的な活用



施策目標 10

持続可能な インフラ整備が 進んでいる

高度経済成長期に整備された公共施設やインフラ設備の老朽化が進んでおり、長期的な対応が求められています。

これからも安全で快適に使える都市インフラでありつづけるため、より効率的な方法で、計画的な維持管理・更新・整備を進めます。また、市内の南北の移動がよりスムーズになるよう取り組んでいきます。



基本施策、主な施策

持続可能な交通インフラを保全します（道路・橋梁）

- 橋梁の計画的な保全
- 道路の適切な維持管理

持続可能な生活インフラを保全します（上下水道・ごみ処理施設）

- 上下水道事業の安心・安全で安定的な運営
- ごみ処理施設の安定的な運用

市内交通の円滑化に向けて取り組みます

- JR 芦屋駅南地区再開発事業の推進
- 市街地における道路ネットワーク機能の形成・充実
- 自転車ネットワーク計画の推進



施策目標 11

協働の意欲が高まり 市民主体のまちづくりが 進んでいる

市民ニーズが多様化する中でまちづくりを進めるためには、市民、企業、団体と行政がともに考え、取り組むことが重要です。

わかりやすく市政情報を発信することで、自治への関心を高めるとともに、人々の知恵と力で、地域が主体となって解決策を生み出し続ける仕組みを育てていきます。



基本施策、主な施策

地域が主体となってまちづくりを行う仕組みを構築します

- 市民活動の機会の提供に努め、地域を支える人材の発掘・育成の支援
- 市民自らがまちの課題を解決する仕組みづくりの推進

効果的・効率的な情報共有に努めます

- 時代に合った媒体の活用による情報発信の充実
- 情報を公開し、オープンガバメントを推進



施策目標 12

人口減少社会に対応した健全で効果的な行財政運営が行われている

少子高齢化に伴う社会保障関係経費の増加、公共施設・インフラ老朽化などから厳しい財政運営が続くと思われます。

人口減少・少子高齢化への対応を中心に据え、今まで以上に、事業の選択と集中を徹底し、行財政改革を行うとともに、組織横断的なマネジメントを通じて施設の効率的運営や最適配置を目指すことで、行政サービスを量的、質的に改善していきます。



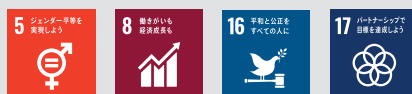
基本施策、主な施策

長期的視点に立った行財政改革を行います

- 適切な評価に基づく、状況に合わせた事業の見直し
- 新たな歳入確保の検討
- 健全な財政運営

持続可能な行政サービスの提供に向け、官民に捉われない施設の効率的な運営や最適な配置を進めます

- 公共施設等のライフサイクルコストの縮減
- 公共施設等の統廃合・複合化等による最適な配置の検討

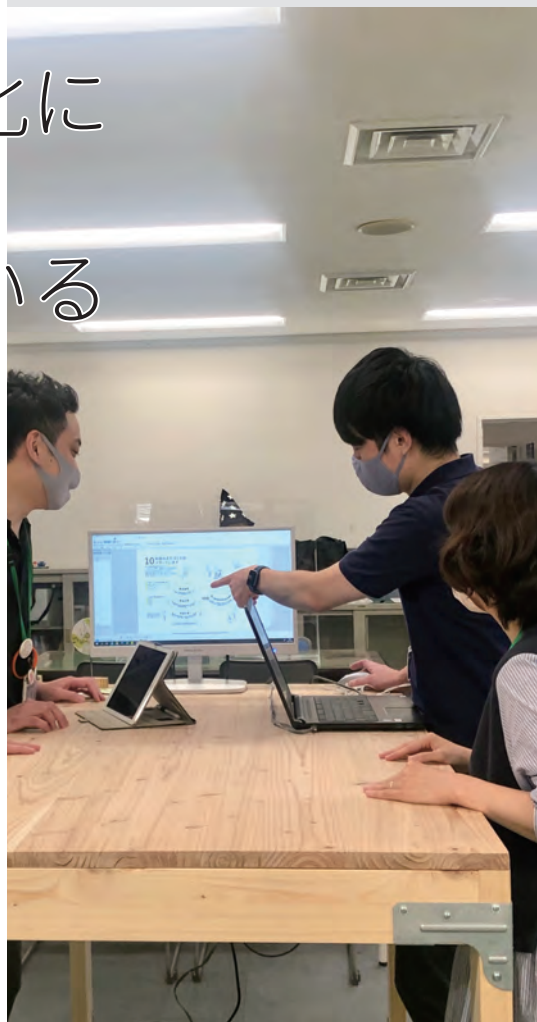


施策目標 13

急速な社会変化に 対応できる 組織になっている

世の中が大きくかつ急速に変化するにつれ、出てくる課題も多様化し、そして複雑になってきています。職員や組織は様々な主体と協力し、柔軟にスピード感を持って取り組まねばなりません。

未来を見据え、持続的に運営していける行政の仕組みづくりや人事や組織の見直し、働き方改革、そして組織を越えてコミュニケーションすることで創造的な取組が生み出される組織づくりを進めます。



基本施策、主な施策

不確実性が高まる社会に適応できる行政運営を行います

- 多様な主体との連携強化
- 全庁的な業務の改善

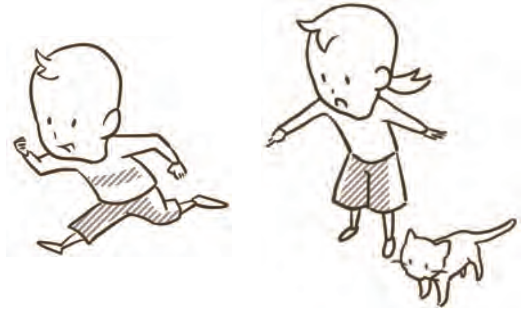
職員が能力を発揮し、効率的な行政運営を行えるよう、「働き方改革」を進めます

- 生産性向上のための適切な手法の選択と環境整備
- 職員の能力向上とモチベーションを引き出す仕組みづくり

成果指標

計画を着実に進めるために、客観的な数値による目標を定め、その推移を把握することで、進捗状況を確認していきます。

施策目標	指 標		現状値	目標 (R7)	
施策目標1 誰もが安心して 生み育てら れる環境が充 実している	① 待機児童数(人)	就学前	181	0	
		放課後児童クラブ	0	0	
	② 子育てで困った時に相談できる相手がいる人の割合(%)		95.5	維持	
	③ 地域子育て支援拠点事業の利用者数(人)		8,082	61,452	
施策目標2 未来への道を 切り拓く力が 育っている	① 若者の自己肯定感(%)	中学生	34.1	40.0	
		15～39歳	49.2	50.0	
	② 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合(%)	小学生	83.9	87.0	
		中学生	69.1	72.0	
③ 子どもと接する機会がある人の割合(%)		65.3	68.0		
施策目標3 生涯を通じた 学びの文化が 醸成されてい る	① 芦屋市内の主な歴史的・文化的な資源を知っている人の割合(%)		64.1	70.0	
	② 月に1回はスポーツ、芸術、歴史に触れるために外出している人の割合(%)		42.5	50.0	
	③ この1年間で自発的に学びを得る機会があった人の割合(%)		46.9	52.0	
施策目標4 あらゆる人が 心地よく暮ら せるまちづく りが進んでい る	① 地域の活動や行事に参加している人の割合(%)		41.2	50.0	
	② 日常生活で困った時に相談できる人や場所がある(ある)人の割合(%)		66.2	75.0	
	③ 障がいのある人に対する地域の理解が進んできたと感じる人の割合(%)		19.0	35.0	
	④ 夫婦間での家事・育児の分担の割合が「同程度・適宜分担」と回答した人の割合(%)	家事	理想	55.8	65.8
			現実	25.8	33.8
	育児	理想	61.7	68.7	
		現実	28.3	38.7	
施策目標5 健康になるま ちづくりが進 んでいる	① 週3回以上の運動習慣がある人の割合(%)		24.1	50.0	
	② 毎年健康診査・定期健康診断を受けている人の割合(%)		70.3	75.0	
	③ 適正体重の人の割合(%)		76.5	維持	
	④ 要支援・要介護認定率の全国との比較(%)	全国		18.7	全国平均から+0.9ポイント以内
本市			19.9		
施策目標6 良好な生活環 境が整い魅力 的な暮らしが 創出されてい る	① 芦屋市が美しく清潔だと思ふ人の割合(%)		87.4	92.1	
	② 地球温暖化防止に向けた取組全5項目のうち、実施項目数(平均)		2.93	3.20	
	③ 1人1日当たりのごみ排出量(g/人・日)		943.1	882.2	
	④ 市内の商店街・商業施設を以前から利用もしくは最近利用するようになった人の割合(%)		28.8	31.1	
	⑤ 市の行政手続きが利用しやすいと感じる人の割合(%)		65.6	70.0	



施策目標	指 標	現状値	目標 (R7)	
施策目標7 災害に強いまちづくりが進んでいる	① 住宅の耐震化率 (%)	96.7	98.0	
	② 土砂災害特別警戒区域及び津波浸水想定区域での地区防災計画の策定割合 (%)	6.0	50.0	
	③ 災害時への備え全 11 項目のうち、実施項目数 (平均)	3.44	5.20	
施策目標8 日常の安全安心が確保されている	① 街頭犯罪・侵入犯罪の認知件数 (件)	244	147	
	② 人身事故の発生件数 (件)	332	293	
	③ 救急 119 番通報受信から現場到着までの時間 (分)	6.7	6.0	
施策目標9 住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている	① 定住意向 (%)	84.3	維持	
	② 植物の育成や管理、清掃など緑化・保全に関する活動に過去1年に1回以上かかわったことがある人の割合 (%)	15.7	20.0	
	③ 地域におけるまちなみとまちなかの緑の景観が美しいと感じている人の割合 (%)	91.3	維持	
	④ 公園を年数回以上、利用したことがある人の割合 (%)	50.9	60.0	
施策目標10 持続可能なインフラ整備が進んでいる	① 対策が必要な橋梁の割合 (%)	18.8	0.0	
	② 水道管等の耐震適合率 (%)	水道管	64.7	66.0
		配水池	39.4	81.2
	③ 下水道管耐震化率 (%)	24.39	27.27	
④ 市内をスムーズに移動でき、利便性が高いと感じる人の割合 (%)	69.8	維持		
施策目標11 協働の意欲が高まり市民主体のまちづくりが進んでいる	① 地域の活動に年1回以上参加している人の割合 (%)	35.9	40.0	
	② 居住する地域にとらわれない活動に年1回以上参加している人の割合 (%)	34.5	40.0	
	③ 市政情報の発信ができていると思う人の割合 (%)	29.0	40.0	
施策目標12 人口減少社会に対応した健全で効果的な行財政運営が行われている	① 経常収支比率 (%)	96.9	94.0	
	② 実質公債費比率 (%)	7.4	16.0 未満	
	③ 将来負担比率 (%)	97.7	97.0 以下	
	④ 公共施設の将来更新 (大規模改修・建替) 費用 (億円 / 年)	30.2	27.3	
施策目標13 急速な社会変化に対応できる組織になっている	① 芦屋市で働くことに満足している職員の割合 (%)	82.7	85.0	
	② 行政外部の人材と協働したことがある職員の割合 (%)	32.1	65.0	
	③ ストレスチェックアンケートの総合健康リスク値	90	全職場で 120 未満	

第5次芦屋市総合計画 概要版

芦屋市企画部政策推進課

TEL 0797-38-2127

URL <https://www.city.ashiya.lg.jp/>
